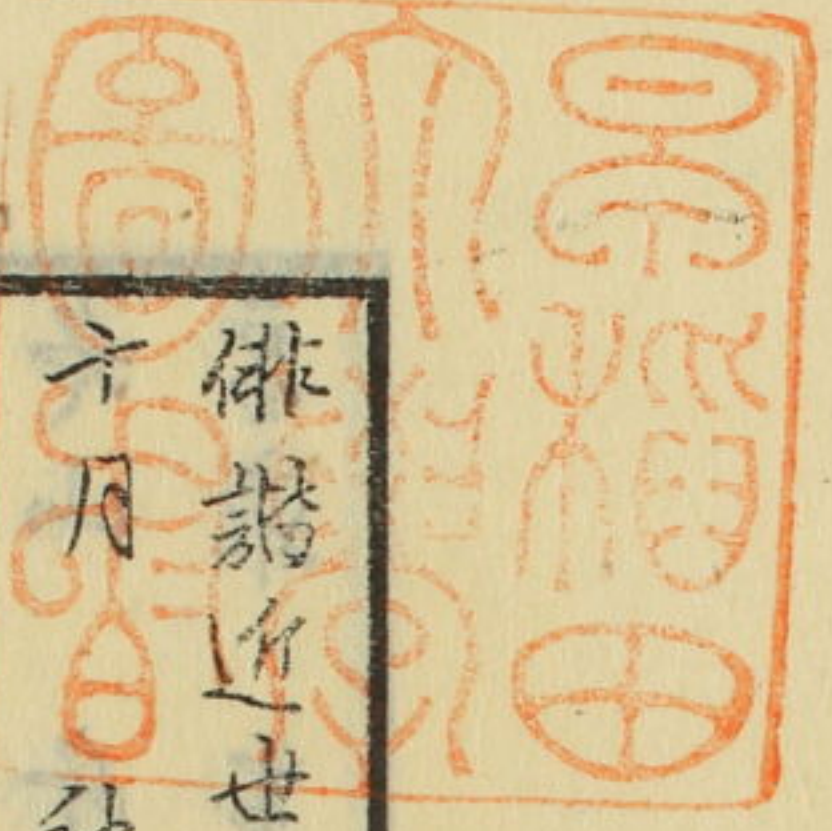




5
4517
2



門 5
 4517
 卷 2



俳諧近世歌句類題集冬部同録

十月 初冬 更衣

神送 神返 神面立 遠之忌 維之忌 芭蕉忌

御令儀 十夜 三御取越 夷儀 玄祐 炉用

口切 初時五 甲時兩 五初言 言 卒 言九

以言 霜 七攻死 冬栂 早栂 冬栂

山茶花_子 桑叶花 枇杷花 榎の花 桜花 冬牡丹

八ツ花 水仙_子 大萱花 室蜀 麦麴 大根_{十丁}

胡蘿蔔 苺 葱 萱菜_十 切干 干菜

浅漬 落葉 木葉_{十二} 坂木紫 枯柳 栂拍

昭和十一年
 二月二十四日
 購求



冬木立	木敷風	千鳥	水鳥	浮標鳥	古	鶯
鶯	鶯	十五	ぬく鳥	重苦鳥	鶯	鶯
鶯子	冬蠅	十二				
十一月	霜月	親見世	冬玉	酉の布	十二	子糸
子灯心	吹草糸	神乐	大陣海	鉾打	六	枯野
枯芦	十九	枯芒	枯尾花	枯蓮		枯菊
枯葛	枯芝	廿	冬枯	冬冬		冬比雲
冬回	冬日	短日	廿	冬月		冬雨
冬山	冬比川	廿	月河	鐘氷		氷柱
雪車	雪竿	廿	綱也	粟		冬構
						廿

冬目一

冬籠	埋火	火桶	廿五	火絆	巨爐	子爐
温石	煖婆	共	因炉裡	榻	炭	布圍
衾	取中	綉子	紙衣	足袋	靴	廿八
併	曆賣	取具引	綱代古	塙	廿九	氷鈔
杜夫魚	鱈	生油氣	親	結糠	絲	
乾鞋	廿三					
十二月	臘八	奉納	廿	仏名	納豆	風呂吹
玉子酒	菜喰	廿	寒凍	廿	寒入	寒内
寒念仏	寒垢離	廿	寒聲	師走	煤拂	廿
餅搗	餅花	餅配	廿	寒比布	共	年忘
						古曆

初七はまきりしゆくはつらんや 小春月 三十九

小六月

ねくしき里の何となく 小六月 未紀

一かゝるもめをよむ小六月 未嘗

小春

新はなすかりしはなを 小春月 三十九

風あしつたのぬまの 日暮を 完未

ゆゑのうす縁のたぐひ 未嘗

柿のあそび糸瓜のたぐひ 未嘗

神々々々川をたぐる 小春月 菊嶋

初冬

と川の中は城下乃町の 初冬 三十九

山鳥のうたはあつた 未嘗

地をぬれ舟もあつた 乙二

あつたはなをたぐひ 北映

更衣

柿 樽梅のあつた 白支

柿 枝伸きつた 未嘗

非送

きつたはなをたぐひ 一茶

我篇乃其之非也
非也乃其之非也
非也乃其之非也

ささるるを非なり
ささるるを非なり
ささるるを非なり

神
神
神

唯
唯
唯

世
世
世

佛會講

佛會講や仙のまのし花の香 榊弓
佛會講や身延の山の屋敷のま 末常
十夜

さくら山十夜おのけの草おのけ 成美
萩路の舟着枝と歌のおのけ 昔三
榊弓の橋七さくらおのけ十夜おのけ 菊重
山越えのりて深乃十夜おのけ 照南
さくら山十夜おのけ十夜おのけ 貞強
佛會越

松葉おのけのりて深乃十夜おのけ 棠元
娘入母と指のりて深乃十夜おのけ 末常

夷備

夷備 大石元
夷備 三平太
夷備 龍介
夷備 孝元
夷備 陰波
夷備 石越
夷備 玄松

岩ありりゆきこしり松の影 三備
山依りゆきこしりなげかきまき 未常
が屏に切

那山ゆき流しゆきこしりゆきこしり
口切ゆ折敷ゆゆきこしり赤桂 省吾
口切ゆ回舟ゆゆきこしりゆきこしり 泳馬

卯時也

ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 士羽
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり ひと
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 十

時雨

ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 一草
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 素篠

月きゆきこしりゆきこしりゆきこしり 土羽
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 二
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 三
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 知美
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 蒼丸
ゆきこしりゆきこしりゆきこしり 雲雄

冬の日の影さしけり御中
 霜白し麦の穂の足つひ
 雑草もふたし霜の山路も
 さねのおと二るの道は
 在りていづれも霜の影は
 有りて霜の影の影は
 霜の影の影の影は
 菊の影の影の影は

六
 七

余のあはれもいづれも
 深山の梅をよみて
 影の影の影の影は
 影の影の影の影は
 影の影の影の影は
 影の影の影の影は
 影の影の影の影は
 影の影の影の影は

早梅

早梅市考とむらさきの梅の華 月如
早梅市考とむらさきの梅の華 月如
え、棲

飛小くく初尚、換よき 棲 三子丸
葉中いよくくふれ地を 棲 菅雅

山 葦 花

山 葦 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
山 葦 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
山 葦 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
山 葦 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
山 葦 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺

冬ハ

茶 花

茶 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
茶 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
茶 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
茶 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
茶 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺

樺 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
樺 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
樺 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
樺 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺
樺 花 中 沼 谷 中 七 百 姓 系 兩 嶺

三子菊

三子菊は、花の形が三つに分れる。葉は
細かく、花は白く、香りがよい。三子菊は、
江戸時代から栽培されている。三子菊は、
花の形が三つに分れる。葉は細かく、花は
白く、香りがよい。三子菊は、江戸時代から
栽培されている。

三子菊

三子菊は、花の形が三つに分れる。葉は
細かく、花は白く、香りがよい。三子菊は、
江戸時代から栽培されている。三子菊は、
花の形が三つに分れる。葉は細かく、花は
白く、香りがよい。三子菊は、江戸時代から
栽培されている。

三子菊

三子菊

三子菊は、花の形が三つに分れる。葉は
細かく、花は白く、香りがよい。三子菊は、
江戸時代から栽培されている。三子菊は、
花の形が三つに分れる。葉は細かく、花は
白く、香りがよい。三子菊は、江戸時代から
栽培されている。

三子菊

三子菊は、花の形が三つに分れる。葉は
細かく、花は白く、香りがよい。三子菊は、
江戸時代から栽培されている。三子菊は、
花の形が三つに分れる。葉は細かく、花は
白く、香りがよい。三子菊は、江戸時代から
栽培されている。

三子菊

三子菊は、花の形が三つに分れる。葉は
細かく、花は白く、香りがよい。三子菊は、
江戸時代から栽培されている。三子菊は、
花の形が三つに分れる。葉は細かく、花は
白く、香りがよい。三子菊は、江戸時代から
栽培されている。

月乃おとぎさくくまを子路の乙二
夕乃中浮舟と崩さか山路 可敷里
路のあかたありのまへ路の上 岸地
獨よりうらうら路よりあまむ 寒松
ゆきをうら園のゆきを路のよ 成蹊
む山路のゆきをまよる夕乃那 冬人

鶴

あけく山おらり遊みぬふつあり 起蝶
湖のあかたありのまへ路の上 未嘗

鶯

冬十五

砂川く山おらり遊みぬふつあり 大に九
神鳥くあまのまへ路の上 未嘗

あまの鳥

あまの鳥あまのまへ路の上 扇暑
持と持のまへ路の上 せり
あまの鳥あまのまへ路の上 大に九
あまの鳥あまのまへ路の上 葛之

あまの鳥

あまの鳥あまのまへ路の上 成美
あまの鳥あまのまへ路の上 乙二

朝の光りくさくさしやさぬ 兼記
くさくさおきくさくさくさくさ 十文

冬 鶯子

冬 鶯子 松叟

くさくさおきくさくさくさくさ 一茶

冬 鶯子

くさくさおきくさくさくさくさ 實松

くさくさおきくさくさくさくさ 素迪

くさくさおきくさくさくさくさ 未嘗

十二月

冬 十六

冬 鶯子 杉木
くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

霜月

くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

冬 鶯子

くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

くさくさおきくさくさくさくさ 兼記

ほのくさくさや枯幹のまじり
きき蕙蘭枯幹のまじり
枯幹のまじり
鹿子菊のまじり
負殿

とりのついで
あしきつ
枯幹のまじり
枯幹のまじり
ふきれ月

枯幹のまじり
枯幹のまじり
未嘗

枯芒
枯芒のまじり
未嘗

枯尾花
枯尾花のまじり
貞潔

道にのほのめぬのこし居枯るの 三六
枯るのこし居ぬし人今九行て 五明

枯菊

菊のこし居ぬし花のこし居ぬし 三六
枯菊のこし居ぬし花のこし居ぬし 三六
枯菊のこし居ぬし花のこし居ぬし 三六

枯葛

枯つて日月は巻の山に令
枯つて日月は巻の山に令
枯つて日月は巻の山に令

霜枯

冬二十



赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六
霜枯る市と女と出ず戸板う形 三六
霜枯る市と女と出ず戸板う形 三六

赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六
赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六
赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六

月と市と女と出ず戸板う形 三六
月と市と女と出ず戸板う形 三六
月と市と女と出ず戸板う形 三六
赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六
赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六
赤枯る市と女と出ず戸板う形 三六

氷の海は中々あつたの山は月 兼紀
くささるゝあつたの海は中々あつたの海 可軒
あつたの海は中々あつたの海 貞照

氷柱

あつたの海は中々あつたの海 可照
あつたの海は中々あつたの海 兼紀

雪車

あつたの海は中々あつたの海 午心
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀

冬三

雪車 個費

あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀

震

あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀
あつたの海は中々あつたの海 兼紀

震

かたはしりしちかき足も巨種か 吾人
孫や子もはたし巨種のもつた 未嘗
母の才入もくくはたぬ巨種か 夢中
女種 温石

よめあのかかろくのかく伊達の海 未嘗
温石より遠くはたかたな同封

嫁婆

古嫁婆夢り益といふ一 首之
松竹も嫁婆のさへおもしろ 乙二

田舎裡

田舎裡いふとあつたあつた 乙二
よめいふもさむらひく 田舎裡は 未嘗

楮

楮帯子拾ふまの度をとるせり 乙二
楮帯もいかに厚いのもひきき 景礼
種のもいかに厚いのもひきき 上 楮帯
楮の木のさへもくくせり 未嘗

炭

炭をとりしちかきあつた 乙二
松竹も炭のさへおもしろ 乙二
年心

ねはしるに井き登るに中か 常代
わらわらあふもく井綿みか 未嘗

帛衣
指子をとくく窓のうく窓衣か 星譜
顔日の山ふを波く成衣衣 未嘗

足袋
ねを替へんく足袋衣衣衣衣 士洞
皮足袋の十とせつもの男の衣 葵亭
足袋を犯くはる衣衣衣衣 未嘗

靴

あふくはる川を中より上 大に丸
靴のふかき病を衣衣衣衣 葵亭
靴の明衣衣衣衣衣衣衣 未嘗
あふくはる川を中より上 未嘗

脚
おん衣衣衣衣衣衣衣衣 長樂
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣 未嘗
香貴 夜無衣
我々の衣衣衣衣衣衣衣衣 定来
草鞋の衣衣衣衣衣衣衣衣 未嘗

かゝ終戸芒たての母鼻くら石法
二月

奥山りきき梅のあつ二月 左琴
植末屋より御女あつ二月 未嘗

臘八
臘八戸瓜えんあつ二月 草鞋 昔三
臘八もあつ二月あつ二月 甚雨
臘八戸骨と皮と梅の心 未嘗
まゝ初

山屋中雨方お合と申すめ 宿人
冬世一

あつ二月あつ二月あつ二月 石岷
あつ二月あつ二月あつ二月 可磨
あつ二月あつ二月あつ二月 未嘗

佛念
あつ二月あつ二月あつ二月 成美
あつ二月あつ二月あつ二月 未嘗

あつ二月あつ二月あつ二月 已安
あつ二月あつ二月あつ二月 年心
あつ二月あつ二月あつ二月 葉亭

月夜

月夜の光を照らす
花の影を映す

玉子酒

玉子酒を飲む
花の影を映す

花の影を映す
玉子酒を飲む

花の影

花の影を映す
玉子酒を飲む

玉子酒を飲む
花の影を映す

花の影を映す
玉子酒を飲む

冬廿二

月夜

月夜の光を照らす
花の影を映す

玉子酒を飲む
花の影を映す

花の影を映す
玉子酒を飲む

玉子酒を飲む
花の影を映す

花の影を映す
玉子酒を飲む

玉子酒を飲む
花の影を映す

花の影を映す
玉子酒を飲む

素記

月七日... 御... 寒...
 足... 竹... 美...
 只... 竹...
 蝶...
 女... 士...
 蝶...
 蝶... 感...
 蝶... 兩...
 蝶... 兩...

冬世五

必... 蝶... 美...
 蝶... 菊...
 蝶... 蝶...
 蝶... 蝶...
 蝶... 蝶...
 蝶... 蝶...
 蝶... 蝶...

蝶

土屋八重のこゝと書きしとてうらなむと

枕

うらなむとありしものゆかりに
枕さして勝ふには小婦ら
そと成やうに枕もも涙あり 菊
あつらひの形の形もく 枕 貞
必多うきせよ 枕と所 柱 未
帝ふを時
帝ふ乃あつたの中にかき
そゆらうらうらふてぬきを前夜
二

冬 七

追雑 鬼ハ外

書りし追雑の鬼を探まて 未嘗
其のしるし梅もくは鬼ハ外 三

因見

丘の山あきのまをて笑ひの 素
園のしるしと書くと別なふ 未嘗

年本

かあしりし年本積る舟のる 景
年あつたはしるしと書る山に 未嘗
年取 厄拂

いらすぬぬあふふふぬん 三六
年ふのふまふふふふふふふ 首三

鶴条
ふふふふふふふふふふふふ 乙二
かふふふふふふふふふふふ 見五
春函三

ふふふふふふふふふふふふ 景飛
桶ふ梅ふふふふふふふふ 景海
ま景
ふふふふふふふふふふふふ 核半

冬共八

ま侍
ふふふふふふふふふふふふ 景海

ふふふふふふふふふふふふ 景飛
井ふふふふふふふふふふふ 未嘗

ふふふふふふふふふふふふ 景三
ふふふふふふふふふふふふ 未嘗
難作 和布 景

ふふふふふふふふふふふふ 景飛
春ふふふふふふふふふふふ 未嘗

り

川幸下なるのつらきものありて 昔こ
りしやあはれなり 夢に 夢士胡
り年入らぬものもあはれ 成美
り心のおもひとまじり入り 柳也
り年入らぬものもあはれ 柳也
り年入らぬものもあはれ 柳也
年暮

さまことくはりぬのつらき 土胡
神信し別深はるくしぬ 三光

冬世九

孝子存大くもぬく山なり 美紀
しぬものもあはれなり 月ト
際夜 文海日

しぬものもあはれなり 乙二
しぬものもあはれなり 未嘗
しぬものもあはれなり 年心
大年

文由も鼻 由あつる 葉や水 幽清
大年しぬものもあはれなり 土胡
年丙之春

年水まゝの心まゝの心
 雨くものまゝの心まゝの心
 神くまゝの心まゝの心
 形くまゝの心まゝの心
 心くまゝの心まゝの心

冬四十



倪潜十家類題集
全部五冊

倪潜古今明題集
凉帝撰 全部五冊

同新十家叢句集
全部四冊

倪潜古今句鑑
素外撰 全部四冊

倪潜新五子稿
蒙文著 全部二冊

叢句題集
外撰 全部二冊

叢句
 注解 倪潜故事
活原著 全部二冊

叢句三傑集
蒙文撰 全部二冊

文政三庚辰歲九月新鑄

大阪書林

吉文字屋市右衛門
 秋田屋右衛門
 塩屋忠兵衛
 河内屋儀助
 河内屋源七郎

大正

大正

